

航空自衛官を志す若者が空自を見学



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は11月23日（月）、航空自衛隊静浜基地（焼津市）で行われた基地見学に希望者を引率した。

この研修は、航空自衛官として今年度入隊予定の者や受験者に対し、勤務環境や特性などについて理解を深めてもらうと開催したもので、県内から18人が参加した。同基地に集合した参加者は、航空自衛隊の役割や活動内容について説明を受けた後、航空機を安全に基地から空へ誘導する管制塔を見学。緊張感溢れる隊員の後ろ姿を見ながら管制官の仕事について理解を深めた。

次に格納庫に移動し、T-7初等練習機を前に機体の説明を受け、飛行訓練中の同機が大空にはばたく姿を見届けた。

また、隣接する消防小隊では火災発生時に1秒を争う迅速確実な動作が求められる防護服の装着要領と破壊機救難消防車を使った消火活動を見学し、隊員が現場で活動する姿を間近で感じ取った。

参加者からは「多彩な職種がある空自で自分の可能性を確かめたい」「得意とする英語を活用して、管制官を目指したい」などといった感想が聞かれた。

静岡地本は、今後もこのような部隊見学会を活用して、入隊予定者や受験希望者が安心して入隊できる環境を整えていく。

今年度入隊した航空自衛官が母校で職業講話



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は11月19日（木）、県立焼津中央高等学校（焼津市）で行われた職業講話に、同校卒業生で本年度航空自衛隊に一般曹候補生として入隊した渡邊歩1等空士を派遣した。

渡邊1士は現在、航空自衛隊築城基地（福岡県築上郡築上町）第7高射隊で高射操作員として日夜訓練に励んでいる。

今回の講話に参加した生徒は、男子16人と女子3人。渡邊1士は在校時の思い出や入隊の動機、教育隊での生活、楽しかったこと、苦労したことなどを話したほか、航空自衛隊の任務や職種、入隊までの流れなどを紹介した。

渡邊1士持ち前の明るさと元気で講話は終始和やかに進み、生徒からの「F-4戦闘機が引退すると聞きましたが、その機体はどうなるのですか」との質問にもしつかり答え、「久しぶりに学校に来れてうれしいです。緊張しましたが楽しく話ができました」と先輩へのアピールに手こたえを感じていた。

静岡地本は、今後も入隊者との連絡を密にし、母校での講話などの機会を活用し今後の募集基盤を確立していく。